

【進捗状況の評価】 A：順調 B：遅れ気味だが達成可能 C：改善が必要 -：実績値集計前等により評価不能

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）													
No.	基本目標	基本的方向	具体的な施策		KPI名称	平成26年度 （現状値）	平成27年度 （実績値）	平成28年度 （実績値）	平成29年度 （実績値）	平成31年度 （目標値）	進捗 状況の 評価	評価についての説明	備 考
1	1.子どもと女性にやさしいまち	子育て・ファミリー層の定住化を目指し、出産前からの切れ目のない子育てを支援し、女性を応援していきます。			子育て世代の区内の定着率	69%	64.6%	68.8%	70.0%	75%	A	3歳児健診対象者数が増加している。引き続き女性や子どもを取り巻く環境整備や支援を実施していく。	
2			（1）仕事と家庭の両立ができる生活環境の整備	①ワーク・ライフ・バランスの推進	ワーク・ライフ・バランス推進企業認定数（累計）	29社	37社	46社	48社	65社	C	29年度はワーク・ライフ・バランス推進啓発事業に新たに社会保険労務士による個別相談会を組み込み、認定申請につながるように実施した。しかし、相談会への応募も想定10社を下回る4社で、新規認定企業は5社となり、今年度も厳しい状況である。認定により、入札時の加点という直接的なメリットを受けられる区内建設業者が、ほぼ認定済みとなったことが、申請企業数の伸び悩みにつながっている。今後は、他課でつながりのある企業等新たな業種に対する積極的な周知や、区内産業関係団体とより緊密な連携をし、企業のニーズに応える啓発事業を実施したり、効果的な周知に取り組む。	
3				②女性起業家の支援	サクラヌbiz応援プロジェクトでの支援女性数（累計）	0人	89人	376人 ※28年度実績＝287人	634人 ※29年度実績＝258人	600人	A	としまビジネスサポートセンターの女性相談割合も増加傾向にあり、着実に女性起業支援者数が増加している。	
4				③若者や女性に対する就労支援	セミナー、見学会、面接会参加者の雇用・就業者数（累計）	7人	48人 ※27年度実績＝41人	97人 ※28年度実績＝49人	109人 ※29年度実績12人	75人	A	29年度実績は少なかったものの、目標値を超えている。	
5				（2）妊娠・出産・子育てでの切れ目のない支援	①としま鬼子母神プロジェクトの推進	出生数／妊娠届出数	74%	73%	74.2%	81.3%	80%	A	妊娠中の様々な不安を軽減し、安心して出産を迎えられるよう、ゆりかご面接、母親・両親学級、ゆりかご・ふらっと等を実施し、妊娠から出産まで切れ目のない支援を継続していく。
6			②待機児童の解消		保育所持機児童数	209人 ※27.4.1現在	105人 ※28.4.1現在	0人 ※29.4.1現在	0人 ※30.4.1現在	0人	A	施設増などに取り組み、2年連続で待機児童ゼロを達成した。	
7			③子どもスキップの運営		子どもスキップの利用者数	461,054人	495,123人	504,714人	541,511	602,100人	B	共働き世帯のニーズに応えるとともに、児童の充実した放課後の生活を支援している。さらに増加する子どもスキップへの需要に対し、適正な人員配置と、厚生労働省が定めた基準にある専用区画の面積の確保が急務である。	
8			④リノベーションによるまちづくり		遊休不動産活用事業化件数（累計）	0件	2件	4件	5件	100件	C	29年度はリノベーションスクールの開催を休止し、新たな事業スキームを検討した。30年度4月から空家活用条例が施行され、空家の所有者から登録された物件を、NPO法人2団体に活用の支援業務を委託する。普及啓発講座等の機会をとらえて、空家の登録・活用を促していく。	
9			（3）学ばせたい通わせたいとしまの教育を推進	①新しい時代を切り拓く教育の推進	①英語活動が楽しい児童の割合・英語の授業が楽しい生徒の割合	小学生74.5% 中学生74.2%	小学生66.7% 中学生65.1%	小学生76.7% 中学生66.7%	小学生76.8% 中学生69.5%	小学生80.0% 中学生80.0%	A	ALT（外国語指導助手）の活用を推進し、区独自の英語活動カリキュラムに基づいた指導を実施した。	
10					②電子黒板やタブレットを活用した授業がわかりやすい児童・生徒の割合	小学生76.6% 中学生64.7%	小学生80.2% 中学生69.6%	小学生76.4% 中学生69.6%	小学生79.2% 中学生69.4%	小学生80.0% 中学生70.0%	A	教員が授業において電子黒板及びタブレットを積極的に活用した。	
11				②安全・安心な学校づくり（国際ナショナルセーフスクール）	国際ナショナルセーフスクール認証取得校数	1校	2校	4校	6校	小学校全校取得に向けて増加	A	既に認証を受けた学校の取り組みノウハウを区内全校に浸透し、安全安心な学校づくりを推進した。	
12			（4）女性の目線にたった施設整備	①トイレから広がる女性にやさしいまちづくり	新区民センター内のパブリックトイレ整備状況	－	－	－	－	整備完了	A	平成31年9月竣工に向け、工事が順調に進んでいる。	
13				②子育て世代が利用しやすい公園の整備	豊島区みどりの基本計画期間（平成23～32年）における公園整備（新設・改修）面積（累計）	28,771㎡	36,582㎡	36,582㎡	37,694㎡	58,100㎡	A	みどりの基本計画通り進捗している。	

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）													
No.	基本目標	基本的方向	具体的な施策		KPI名称	平成26年度 (現状値)	平成27年度 (実績値)	平成28年度 (実績値)	平成29年度 (実績値)	平成31年度 (目標値)	進捗 状況の 評価	評価についての説明	備 考
14	2.高齢になっても元気で住み続けられるまち	高齢になっても、元気で、生きがいを持って、安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。			65歳健康寿命	男性80.43歳 女性82.25歳	男性80.43歳 女性82.25歳	男性80.48歳 女性82.34歳	—	男性81.4歳以上 女性83.1歳以上	—	現在29年度の健康寿命の算出が済んでいないため、実績値は判明せず。1年遅れて28年度実績を掲載。微増傾向。	
15			(1) 生涯健康のまちづくり	①健康長寿のまちづくりの推進	地域における高齢者の通いの場の受け入れ人数	—	—	1,440人	1,882人	1,500人	A	としまる体操や介護予防リーダーが実施する通いの場などが拡大し31年度の目標値を平成29年度中に達成した。	
16				②としま健康チャレンジ！の促進	健康チャレンジ！参加者の健診受診率	88%	89.5%	91.2%	92.5%	95%	A	としま健康チャレンジ事業を継続している方が増え、健康意識が徐々に向上している。参加者の健診受診意欲も向上していると同時に他の健康事業への関心も上昇傾向にある。	
17			(2) 生涯安心のまちづくり	①としま見守り安心戦略の推進	見守り協定団体数（累計）	1団体	1団体	1団体	1団体	100団体	B	今年度中に3団体と事業者協定締結を行う予定で準備を進めている。	
18				②地域支え合いの充実	認知症サポーター養成人数（累計）	4,569人	5,849人	7,182人	9,244人	1万人	A	認知症サポーター養成講座を周知するとともに、講座を各種専修学校などで実施した。平成30年度はすでに約800人が受講しており、5年間累計で1万人という目標値は達成している。	
19				③医療・介護サービスの基盤整備	介護・福祉サービスや相談窓口に満足している人の割合	13.5%	—	28.5%	30.0%	20.0%	A	平成28年度から区民意識調査の質問内容を「医療や介護、生活支援サービスなどの提供体制が充実し、身近な相談窓口を安心して利用できる」に変更したが、同内容であった平成29年度の調査結果からも、C S Wの定着化等により、着実にその満足度が向上している。	
20	3.様々な地域と共生・交流を図り、豊かな生活を実現できるまち	交流を持つ自治体との連携を進め、豊島区と他自治体における相互補完モデルの構築を目指します。連携を図ることで、様々な地域と共生し、ともに豊かな生活を実現できるまちづくりを進めていきます。			「観光情報や物産など、地方の情報に接することができる」と思う区民の割合	22.5%	—	20.4%	22.5%	30.0%	B	豊島区の交流自治体数は57を数え、その数は年々増加している。新区民センターや西口公園に設置予定の観光案内ブースを活用したPRを積極的に展開していく。	
21			(1) 様々な地域との共生	①豊島区版CCRC構想の推進	①移住に関する説明・相談への参加者数	—	—	—	—	100人	—	移住に関する説明会、相談会は29年度の検討結果により、平成30年度から実施予定	
22					②移住体験ツアーの参加者数	—	—	—	23人	20人	A	平成29年度より、お試し居住モニターツアー（移住体験ツアー）を実施し、当該事業参加者のうち、2組4名が秩父市の進める移住・交流促進事業につながった。	
23				②大学との連携による地域活性化の推進	自治体コンソーシアム参加自治体	40自治体	40自治体	52自治体	60自治体	100自治体	A	平成26年3月31日に大正大学と連携に関する協定書結び、豊島学講座をスタートさせるなど、連携事業を活発化させている。その中で自治体コンソーシアムは大正大学が独自に切り拓いた連携で、平成29年度は「座・ガモールの開店」（コンソーシアム加盟自治体を中心とした商品を取り扱うアンテナショップの開店）や「地域創生シンポジウムの開催」（文科省の後援を受け、コンソーシアム加盟自治体などを中心に、約180名を招いたシンポジウムを開催）などを実施。	
24					③特別区全国連携プロジェクト (豊島友好・交流・姉妹都市連携事業)	特別区全国連携プロジェクトは23区全体の連携事業をとりまとめH27にスタートした	28事業138自治体 (一つの自治体を複数の事業で連携しているため自治体数を複数カウントしている)	26事業147自治体 (一つの自治体を複数の事業で連携しているため自治体数を複数カウントしている)	—	新たな連携事業の実施	B	特別区長会事務局より連携自治体・事業の拡大を求められている。新に連携事業・交流自治体獲得に際し、(公財)東京都区市町村振興協会からの助成金を財源とした補助金も毎年用意されている（H27生活産業課、H28、29文化観光課で活用済。H30も文化観光課で活用予定）。なお、当該事務局が実施している連携事業の実績値集計前のため、評価不能（9月に調査予定、結果は10月以降）	
25			(2) 自治体交流の活性化	①自治体交流の活性化	自治体交流事業の参加者に対して行う満足度調査（5段階評価）	—	4.75	4.84	4.60	平均4以上	A	実績値は、夏休み期間中に行われた交流ツアーでのアンケート結果。ほとんどの参加者から、また参加したいとの声や、内容に関しても好評をいただいた。	
26				②他自治体との教育連携の推進	①子ども体験交流の派遣人数	16名	16名	16名	16名	24名	A	教育連携協定を締結する秋田県能代市との間で中学生の相互訪問を実施した。	
27	②派遣団の派遣人数	14名			10名	10名	11名	20名	A	教育連携協定を締結する秋田県能代市との間で教員の相互訪問を実施し、教員の授業力向上に寄与した。			

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）													
No.	基本目標	基本的方向	具体的な施策		KPI名称	平成26年度 （現状値）	平成27年度 （実績値）	平成28年度 （実績値）	平成29年度 （実績値）	平成31年度 （目標値）	進捗 状況の 評価	評価についての説明	備 考
28	4.日本の推進力の一翼を担う国際アート・カルチャー都市	豊島区が誇るアート・カルチャーの魅力を、世界に向けて発信し、人と産業をひきつけ、世界中から人が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進し「持続発展都市」を目指します。			滞在人口 （平日一日あたり）	976,000人 【代替データ】 314,507人	994,000人 【代替データ】 315,710人	【代替データ】 318,381人	【代替データ】 317,404人	1,300,000人 【代替データ】 目標値未設定	－	当初設定していた数値目標の出力データ（RESAS）が平成28年度中に変更されたため、あらたに平成31年度の目標値を検討する必要がある。今後も継続して、世界中から人々が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進していく。	
29			（１）多様性を活かしたまちづくり	①演劇のまちとしての魅力の発信	フェスティバル／トーキョー（F/T）動員数	58,609人	55,624人	83,014人	49,623人	75,000人	B	年度により事業内容・使用会場・連携プログラムが異なるため、前年を下回る実績値となっている。本事業は国際アート・カルチャー都市構想の基幹事業であり、平成28年度から東京芸術祭の一環として開催していることから、他のプログラムと共に引き続き発信力の向上を目指す。	
30				②アニメ・コスプレなどサブカルチャーの発信	オータムカルチャーフェスティバル来場者数	9.9万人	16.7万人	18.3万人	21.7万人	32万人	A	池袋ハロウィンコスプレフェス、アニメイトガールズフェスティバル、大田楽いけぶくろ絵巻等を一体的に展開し、マンガ・アニメ・コスプレから伝統芸能に至るまで、池袋のまちを回遊しながら楽しむことができる秋の一大イベントとなっている。平成29年度は、21.7万人の動員実績を記録し、参加者は増加し続けており、今後さらなる集客が見込まれる。	
31			（２）出会いが生まれる劇場空間	①旧庁舎跡地活用・周辺整備～8つの劇場によるにぎわい～	集客数（年間）	160万人	－	－	－	650万人	A	平成32年グランドオープン工事は予定どおり進行中	
32				②道路や公園などの公共空間の利用による都市の魅力向上	オープンカフェ・マルシェ等の開催回数（累計）	21回	102回 ※27年度実績＝81回	127回 ※28年度実績＝25回	144回 ※29年度実績＝17回	200回	C	今後は、さらなる来街者の利便増進を図るため、常設の施設（食事、購買施設等）設置に向けた取組みを進める予定である。	
33				③安全・安心の確保	刑法犯の認知件数	6,107件	5,453件	4,845件	4,778件	5,500件	A	平成29年度は、ピーク期の平成15年と比較して約59％減と減少傾向を維持。本年度も警察庁が今年上半年の暫定値を発表し、認知件数は、全都道府県で前年比11.6％減少しており、引き続き減少傾向。特に窃盗犯の減少が全体減少分の約7割を占める。懸念材料は、区内の特殊詐欺被害急増である。	
34			（３）世界とつながり人々が集まるまち	①インバウンド施策の推進	宿泊（滞在）満足度	－	74.20％	－	－	H27調査結果＋5～10％	－	平成27年度に初めて実施したアンケートの調査結果。平成31年度の目標達成に向け、公衆無線LAN（Wi-Fi）環境の整備や多言語での発信などの施策に取り組んでいく。	
35				②産業振興による活性化	東京5区合同大商談会・ものづくりメッセ等参加企業数（累計）	196社・団体	388社・団体 ※27年度実績＝192社・団体	576社・団体 ※28年度実績＝188社・団体	752社・団体 ※29年度実績＝176社・団体	1,200社・団体	C	年平均200社・団体を目標にしているが、減少傾向にある。（5区合同商談会においては、幹事区の取り扱う商談品が毎年違うため一概に比較は難しいものの、豊島区開催のものづくりメッセについては、出展社数の増加対策にむけての改善が必要）	

K P I の進捗状況 集計結果 (基本目標単位)

*注1:「進捗状況の評価」はK P I ごとに実施

*注2: K P I = 全31指標(「基本的方向」の数値目標は除く)

基本目標	進捗状況の評価(注1)	K P I 数 (注2)	政策体系内 での割合	備 考
1.子どもと女性に やさしいまち	計	12		
	A:順調	9	75%	
	B:遅れ気味だが達成可能	1	8%	
	C:改善が必要	2	17%	
	—:実績値集計前等により評価不能	0	0%	
2.高齢になっても 元気で住み続けら れるまち	計	5		
	A:順調	4	80%	
	B:遅れ気味だが達成可能	1	20%	
	C:改善が必要	0	0%	
	—:実績値集計前等により評価不能	0	0%	
3.様々な地域と 共生・交流を図 り、豊かな生活を 実現できるまち	計	7		
	A:順調	5	71%	
	B:遅れ気味だが達成可能	1	14%	
	C:改善が必要	0	0%	
	—:実績値集計前等により評価不能	1	14%	
4.日本の推進力 の一翼を担う国際 アート・カルチャー 都市	計	7		
	A:順調	3	43%	
	B:遅れ気味だが達成可能	1	14%	
	C:改善が必要	2	29%	
	—:実績値集計前等により評価不能	1	14%	
合 計	計	31		
	A:順調	21	68%	
	B:遅れ気味だが達成可能	4	13%	
	C:改善が必要	4	13%	
	—:実績値集計前等により評価不能	2	6%	